

第4章 真の生命

初聖体を準備する子供たちにミサの意味を考えさせるための導入として、この章ではヨハネ福音書、第15章のブドウの木のとえばなしについて扱います。

善い牧者とブドウの木のとえばなしは、イエスさまの人間性をあらわしていることですので素晴らしい箇所です。そしてこの二つのたとえばなしは車の両輪のような関係の要素を含んでいます。動物と植物という人間と密接にかかわりあいをもつ被造物をとりあげて、生命の問題を通して神に結ばれることを教えているからです。そしてイエスさまとわたしたち人間との生命の一致を明らかにしてくれます。

ブドウの木のとえばなしを通して、子供たち自身にキリスト信者としての生きかたを感じさせます。

子供たちはこのたとえばなしを思い出し、イエスさまとの一致とはなにかを次第に体験していくことでしょう。

ヨハネ福音書第15章1～6

わたしはほんとうのぶどうの木でわたしの父はさいばいしゃである。父は、わたしにあって実をむすばない枝をすべて切りとり、実をむすぶのをもっとゆたかにむすばせるために刈りこんでくださる。

あなたたちは、わたしの語ったことばを聞いたことによって、もう刈りこまれたものである。わたしにとどまれ、わたしがあなたたちにとどまっているように。

木にとどまっていない枝は自分で実をむすべないが、あなたたちもわたしにとどまっていて、わたしもまたかれのうちにいるなら、その人は多くの実をむすぶ。なぜなら、わたしがいないと、あなたたちにはなに一つできないからである。

○ 年齢 3歳～初聖体

○ 教材

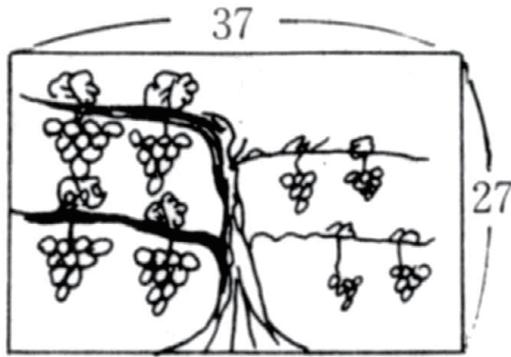
(イ) 模型のブドウの木 (写真Ⅱ参照)

(ロ) ポスター B4判以上 (写真Ⅰ参照)

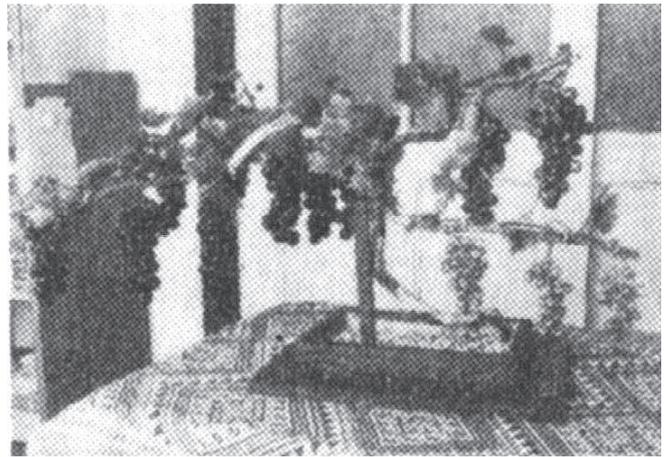
ブドウの木の枝、細さ太さを対比的に、
葉も多い、少ない。

ブドウの実も対比的に立派なブドウの実、色のわるい小さいブドウ。

(ハ) 聖書のことばを書きとった、美しいカード (写真Ⅲ a、写真Ⅲ b参照)



写真Ⅰ ブドウの木のポスター



写真Ⅱ 対象的にみえるように

○ 要点

積極的な面としてわたしたちの生活の姿をみつめながら、すべての植物が成長し、花を咲かせ、実をむすばせるために栄養をとります。植物は樹液が大切なように、わたしたちキリスト信者の生活にもイエスさまからの栄養、樹液をいただく必要があります。それはイエスさまにとどまり、よい実を結び、成長するためです。

「わたしの愛にとどまりなさい」というみことばを秘跡、祈り、黙想によってうけるのです。

消極的な面から、ブドウの木の模型又はポスターから樹液を十分にうけた太い、良い枝と対象的に樹液をあまりとらなかつた細い枝と、色の悪い小さい実、それは秘跡、祈りから遠ざかり怠っている姿です。

初聖体の準備の子供たちには樹液を妨げること、タレントを有益につかわなかつたことについて、真の生命を減少させること（細くなる）、ゆるしの秘跡へと進めることができます。

○ 教材の提供

都会に住む子供たちは、羊の群、ブドウの木等を見る機会がありません。したがって本、写真、テレビ等を見るだけで又聖書のおはなしを聞くだけで終らない教材を積極的に与えるべきです。身近にあるもの、感覚に触れることができるものが要求されます。

キョウチクトウの木、いちじくの木、ゴムの木、松、桜等は樹液がよく観察できますし、ヘチマはお母さんたちが経験したと思います。このテーマの中心である樹液について強く印象づける教材です。

○ 作業

ポスターを画く。聖書を美しいカードに書きとる。(初聖体)

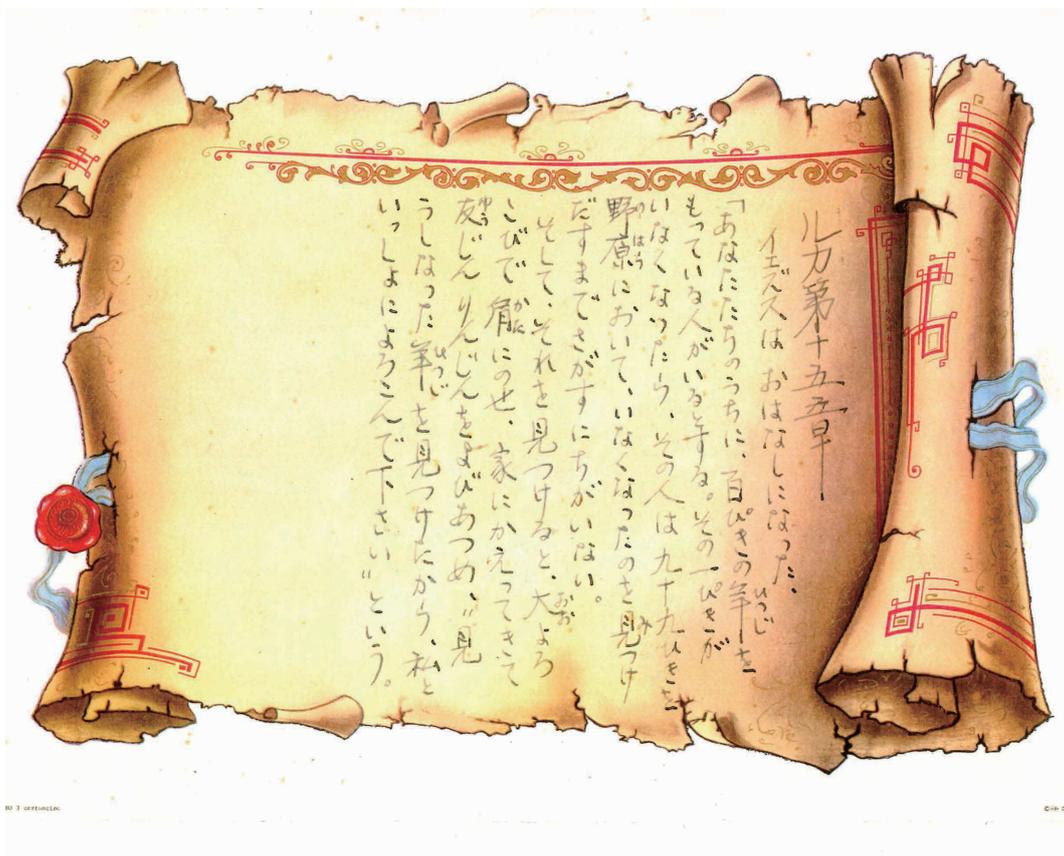
ぬり絵、張り絵 (3歳)

○ 直接のねらい

神さまの生命の賜物によっていきるというあこがれをもたせる。更なるその賜物にこたえ、いつも、もっとゆたかに賜物をいただく望みをもたせる。



写真Ⅲ a 美しいカードにていねいに書かせる



写真Ⅲ b 美しいカードにていねいに書かせる